第 22 回　安佐南区回復期生活期連携推進の会

開催のお知らせ

開催日　平成 28 年 8 月 26 日（金）

場　所　安佐南区総合福祉センター　6 階会議室

公式サイト参照してください⇒ http://shakyo-hiroshima.jp/asaminami/about/riyou.html

時　間　午後 7 時～8 時４０分（9 時閉館）

内　容　テーマ：　**「 退院時は連携のチャンス 」**

～模擬事例から学ぶ～

講　師：あすか居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員　三原千春

【　今回のテーマ　】

医療と介護の連携を意識していても、担当の患者・利用者について「本当にベストを尽くして連携できたのだろうか」と見返すと、自信がないかもしれません。「安佐南区回復期生活期連携推進の会」は発足して 5 年目に入りました。職種を超えて会話することで、以前に比べてある程度前進したかもしれません。

しかし、ここで原点に立ち返り、そもそもこの会の目的であった「**退院時の連携**」に焦点を当て、それぞれの職種が果たすべき役割と取るべき立場をもう一度考えてみませんか？一人の患者・利用者の**退院前**、**退院時**、**退院後**、何があって、何が足りないのか、誰が関わり、誰が関われなくなるのか、新しいチームの作り上げ方、チームの意思統一の方法など、実践業務に役立つ内容が扱われます。乞うご期待！！

現状・課題

社会保障審議会 介護保険部会（第56回）	資料１
平成28年3月25日	

3　在宅医療・介護連携推進事業の8つの取組のうち、1つ以上を実
79．8%、全てを実施している市町村は2．5%（平成27年8月1日
市町村の規模によって進捗に違いがある。

4　都道府県の市町村支援の程度には差があり、充実した市町村支援を実施している都道府県においては、在宅医療・介護連携推進事業の取組数が多い。

Ⅲ．入退院時の医療と介護の連携について

1　入退院時における医療と介護の連携を円滑に進めるためには、病院等職員と介護支援専門員の退院調整が重要であるが、居宅介護支援事業所の利用者のうち、病院等職員から介護支援専門員への連絡がないまま退院していた割合は約４割であった（平成26年介護報酬改定検証調査）。

2　入院時についても、介護支援専門員から病院等職員に対して在宅生活における状況等の情報提供が行われていない割合が、地域によって差は見られるものの一定程度みられる。

3　入退院時における病院等職員と介護支援専門員との連携が適切に行われないケースとしては、次のようなケースが考えられる。

・入院時　介護支援専門員の利用者への訪問は原則月１回程度であるため、利用者の入院を把握できず病院等へ情報提供ができないケース
・退院時　要介護認定を受けていない患者（新規に要介護認定を申請し、在宅介護の導入が必要な患者）の場合に介護支援専門員への連絡が行われないケース
要介護認定を受けており、担当の介護支援専門員がいるものの、比較的要介護度が低く、家族の介護力が充足しているために、介護支援専門員への事前の連絡が行われないケース

4　病院等職員と介護支援専門員との入退院時の連携を促進するための取組については、広域的な医療を担っている病院等での入退院の場合、複数の市町村にまたがる連携を考慮する必要があり、単独の市町村による取組では困難となっている。

お問い合わせ：　安佐南区回復期生活期連携推進の会 事務局　野坂寿子（ケアプランよりしま内）

電話：962-1232　FAX：850-1028　メール：nosaka@yorishima.com

第２２回　安佐南区回復期生活期連携推進の会 開催のご報告

平成 28 年 8 月 26 日（金）19：00 より　安佐南区総合福祉センター

■ 今回のテーマ

「 退院時は連携のチャンス 」～ 模擬事例から学ぶ ～

講師　　主任介護支援専門員　三原千春氏（あすか居宅介護支援事業所）
ファシリテーター　主任介護支援専門員　米澤一志氏（ケアプランよりしま）

■ 事例検討方式：ワールドカフェ方式

①ラウンド１：検討内容「この方が回復期を退院する時には、どんな情報が必要だと思いますか」

ADL 情報は必須だよね～でも家族の介護力次第で、本人の希望の実現も変わってくるよね～

掘りごたつがあるから、歩行器歩行はどうにか工夫できないかな～

②ラウンド２：検討内容「次に一般病院へ入院になりました。
生活期から一般病院へ、どんな情報が必要だと思いますか？」

入院した翌日にはリハビリが始まるから早く情報がほしいな～CM さんは７日以内みたいだけど、それではちょっと遅いかも…

入院時にどの程度の情報がいるのだろう？入院先が回復期ではないから、退院時連携は少し難しいのかな？

③ラウンド３：検討内容の発表「どんな気づきがあったか」を最初のグループに戻って話し合い発表

どんな情報を相手が必要としているかを知る必要がある

サマリーの形態に工夫ができるかも

生活期　27 名
介護支援専門員、包括支援センター職員、訪問リハビリ療法士、通所リハビリ療法士

回復期　７名
病棟療法士、医療ソーシャルワーカー

一般病院（療養型・地域包括ケア）５名
病棟療法士、医療ソーシャルワーカー

39 名

皆さま、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。次回は１１月開催予定です。
また再びお会いできるのを楽しみにしております。ご意見などありましたら遠慮なく事務局までお知らせください。

平成 28 年 8 月 30 日　安佐南区回復期生活期連携推進の会 事務局